

秋田藩の修史事業

佐竹氏は、12世紀中ごろに源義光の孫、昌義が常陸国に土着して以来、500年近く常陸国北部を根拠地とし、義宣の時代には常陸国ほぼ一国を支配する大々名となりました。しかし、関ヶ原合戦での不手際から、慶長7年（1602）に出羽国秋田（秋田県）へ移されました。

その後、江戸時代半ばになると、政治的にも経済的にも安定し、過去を振り返る余裕が出てきました。そこで秋田藩三代藩主義処^{よしずみ}のもとで源義光以来の佐竹氏の歴史を調査・研究する修史事業が始まりました。この修史事業には佐竹氏と藩士との関係（由緒）を再確認する意味合いもありました。修史事業は新たに設置された「御文書所」が中心となり、藩士に伝来文書や系図などを提出させたり、旧領常陸国に藩士を派遣して、秋田へ同行せず帰農した旧臣の家を訪ねたり、旧跡の調査を実施しました（「常陸御用日記」）。

そうした成果をもとに藩士の伝来文書を書き写した「家蔵文書」、藩主家所蔵文書を中心とした「御文書」、佐竹一族の系図集「源姓佐竹氏総系図」、中級藩士の系図集「諸士系図」などといった史料集が編纂されていきました。これらは家譜編さんのための副次的な産物ですが、今日でも佐竹氏研究に欠かせない史料群です。修史事業は30年以上に及び、享保12年（1727）に二代藩主義隆までの家譜が完成しました。

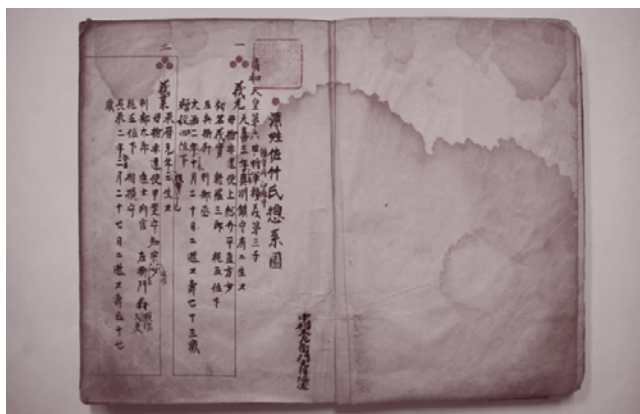
さて、古代・中世史部会では2022年度の資料編行に向けて準備を進めており、古文書以外にも系図・



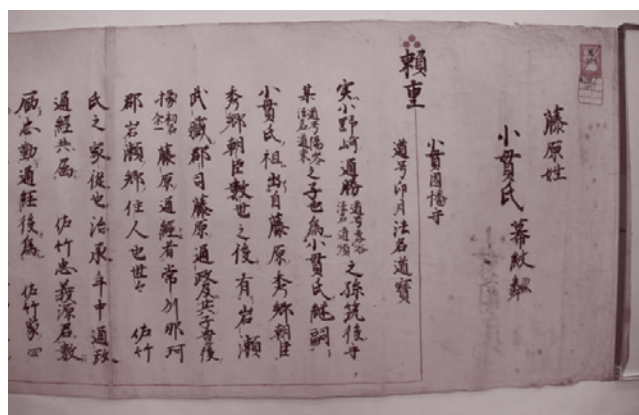
森木 悠介 氏
古代・中世史部会専門調査員
東海村立図書館非常勤司書（嘱託）

系譜を収録する予定です。現在、秋田藩が修史事業で収集あるいは編さんした史料群の大部分は秋田県公文書館が所蔵しています。その成果を資料編に取り入れるべく、調査員が分担して秋田県公文書館に赴き、系図・系譜の調査を行っているところです。

宇留野、大沢、小瀬、小田野、小場、高部、長倉、野口、檜沢（以上佐竹一族）、石沢、泉、小貫、小祝、野上氏ら常陸大宮市内の地名を名字に持つ氏族はもちろん、佐竹本宗家を始め、常陸大宮市域と関わりが深い氏族もできる限り収録していく予定です。しかし、秋田藩の修史事業の成果だけでは十分とは言えません。秋田転封の際、帰農して常陸国に残った者や水戸藩など他家に仕えた者も多く、そうした家の調査を進めております。そのため、系図などの史料をお持ちの方はぜひ事務局までご一報ください。



▲源姓佐竹氏総系図（秋田県公文書館蔵）



▲小貫氏系図（秋田県公文書館蔵）

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)